



コロナ危機と時間学



～新型コロナウイルス感染症と私たちの過去・現在・未来～

山口大学研究プロジェクト「コロナ危機と時間学」では分野間交流を通して議論を行い、そこで得られた知見や意見を自身の研究に還元することで研究の促進や新しい展開がされることを期待しています。そこで、積極的に交流を図るためこれから3回にわたりワークショップを開催いたします。

第1回 ワークショップ

日時:2023年4月26日(水)13時00分～16時00分
会場:山口大学吉田キャンパス大学会館会議室
対象者:山口大学学内者および本プロジェクト共同研究者
事前申込:不要

プログラム

時間	氏名	所属	研究課題名
13:00-14:00	青山 翔	教育学部	新型コロナウイルス感染症流行に伴う休校措置を過去に経験した幼児の体力の発達に関する縦断的研究
14:00-15:00	安達 圭一郎	大学院医学系研究科 保健学専攻	長引く新型コロナ感染症(COVID-19)に対する一般市民の病気不安及び病気認知の過去と現在:時の変化にマッチしたメンタルヘルス支援を目指して
15:00-16:00	高橋 雅子	教育学部	コロナ後(未来)の学校を見据えた授業の不自由感に対する効果的な没入感を目指した授業づくり—児童生徒や学生の特性を踏まえた多層的分析—

アマビエやアマビコたちについて

妖怪のなかでも、豊作や疫病の流行など未来のことを予言したあと、除災の方法を告げて消え去ったという異形のモノを予言獣という。江戸時代の後期から、擦物や錦絵などに登場し庶民の関心呼んだ。頭に二本の角を持つ女の顔に魚体が結びついた神社姫や姫魚をはじめ、人面牛身の件、猿の顔に三本足のついたアマビコなど、いずれも異様な姿をしている。予言の内容とその姿を描いた絵図は、庶民の間で主に悪病除けの目的で求められ呪的な効果が期待された。

(「妖怪の通り道 俗信の想像力」
常光徹 より抜粋)



アマビエ



「肥後国海中の怪(アマビエの図)」
(京都大学附属図書館所蔵)



アマビコ

アマビコたちについては湯本豪一記念日本妖怪博物館(三好もののけミュージアム)のno+eでも御覧いただけます。
https://note.com/miyoshi_mononoke/n/ed660dc86b54

コロナ危機と時間学 HP



http://www.rits.yamaguchi-u.ac.jp/?page_id=3042

問合せ先
山口大学時間学研究所 事務室
Mail:sh076@yamaguchi-u.ac.jp
Tel:083-933-5848